

所属:文学部 英語英文学科	職名: 教授	氏名: 石田 雅近	大学院の授業担当:有(博士・修士)		
研 究 活 動					
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発 表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ記入)	担当頁数
【著書】					
1『英語科教育の基礎と実践—新しい時代の英語教員をめざして—』	共著	平成10年12月	三修社	浅羽亮一(代表 者)、石田雅近(副 代表者)、小林ひ ろみ、神保尚武、 田中慎也、久村 研、平野道代、山 崎朝子	50頁～60頁,95頁～ 105頁,181頁～192 頁
2『CALL英語教育システム導入の可能性と外国語教育改善に関する総合的研究 (平成10年度清泉女子大学教育研究助成金研究成果報告書)』	共著	平成12年8月	清泉CALL共同研究グループ	石田雅近(研究代 表者)、実吉典子、 Kathy Matsui、 Stephen McCabe、 伊東田恵、相京美 樹子、小河奈保 子、吉田由美子、 熊谷千恵子、秋本 直子、太田和子、 渡辺里少	1頁～11頁
3『新時代の英語教育養成—現状と展望—』(「小・中・高の英語教員の現状に関する調査報告書」)	共著	平成12年11月	大学英語教育学会 (教育問題研究会)	浅羽亮一(代表 者)、石田雅近(副 代表者)、神保尚 武、小林ひろみ、 久村研、山崎朝子	36頁～46頁
4『現職英語教員研修の実態と将来像に関する総合的研究 (平成12年度文部省科学研究費補助金「基盤研究(B)」研究成果報告書)』	共著	平成13年3月	英語教員研修研究会	石田雅近(研究代 表者)、緑川日出 子、久村研、酒井 志延、笹島茂、小 泉仁	9頁～37頁
5『大学院修士課程における教育内容・方法等に関する開発研究 (平成13年度文部科学省初等中等教育局委嘱研究事業成果報告書)』	共著	平成14年3月	外国語(英語)科高度職業人養 成研究会	石田雅近(研究代 表者)、森住 衛、 竹前文夫、中野美 知子、矢田裕士	1頁～16頁,51頁～ 104頁
6『現職英語教員研修の実態と将来像に関する総合的研究 (平成13年度文部省科学研究費補助金「基盤研究(B)」研究成果報告書)』	共著	平成14年3月	英語教員研修研究会	石田雅近(研究代 表者)、緑川日出 子、久村研、酒井 志延、笹島茂	5頁～20頁,178頁～ 183頁
7”A Questionnaire Based Report on the National In-service Training for Teachers of English”	共著	平成14年12月	Teacher Education Research Group	石田雅近(研究代 表者)、緑川日出 子、久村研、酒井 志延、笹島茂	著者全員による共同作 業であるため担当箇所 は抽出できない。

8『大学院修士課程における教育内容・方法等に関する開発研究 (平成14年度文部科学省初等中等教育局委嘱研究事業成果報告書)』	共著	平成15年3月	外国語(英語)科高度職業人養成研究会	石田雅近(研究代表者)、森住 衛、竹前文夫、中野美知子、矢田裕士	3頁～14頁,57頁～126頁
9『現職英語教員研修の実態と将来像に関する総合的研究 (平成14年度文部省科学研究費補助金「基盤研究(B)」研究成果報告書)』	共著	平成15年3月	英語教員研修研究会	石田雅近(研究代表者)、緑川日出子、久村研、酒井志延、笹島茂	3頁～13頁,81頁～90頁,214頁～230頁
【学術論文】					
1 英語教育界「連携」のために—大学教師より高校英語教育への疑問・要望—	単著	平成11年1月	『現代英語教育』第35巻第10号 研究社		16頁～18頁
2 英語教員研修の今後の課題—研修しやすい環境作りと研修内容を中心として—	単著	平成14年11月	『全英連会誌』第40号 全国英語教育研究団体連合会		20頁
3 Quo vadis? “これからの英語教育”—規制緩和という荒波の中で—	単著	平成15年5月	『高校英語通信』第18号 東京書籍		2頁～3頁
【その他】					
(教科書)					
1『ステップ・アップ・リスニング(Step-up Interactive Listening)』	共著	平成11年12月	金星堂	石田雅近(監修)、松井ケイ、伊東田恵、吉田由美子	6頁～9頁,34頁～37頁,83頁～91頁
2『パラグラフ中心の英語総合演習(New Interactive Reader)』	共著	平成13年1月	金星堂	石田雅近(監修)、小河奈保子、吉田由美子、宮嶋万里子	1頁～5頁,20頁～24頁,83頁～87頁,95頁～100頁
3『Hello there ! I』(オーラル・コミュニケーション) (文部科学省検定高等学校教科書)	共著	平成15年2月	東京書籍	石田雅近(監修・編著者代表)、緑川日出子、酒井志延、島崎美登里、鈴木久実、北野マグダ	著者全員による共同作業であるため担当箇所は抽出できない。
(テキスト)					
1『NHKラジオ高校講座英語 II』	単著	平成15年4月	日本放送出版協会		301頁
(辞典・事典)					
1『新英和大辞典』(第六版)	共著	平成14年4月	研究社出版	編者:竹林滋、小島義郎、東信行、安藤貞雄、小西友七(執筆者:宮井捷二、廣瀬和清、松村好浩、中尾啓介、櫻井雅人、石田雅近他約55名)	

2 『応用言語学事典』	共著	平成15年4月	研究社出版	代表者:小池生夫 (執筆者:田辺洋二、井出祥子、矢野安剛、和田稔、鈴木博、竹蓋幸生、竹前文夫、中野美知子、森住衛、石田雅近他約200名)
(ポスター)				
1 Teacher Training in Japan	共	平成11年8月	第12回国際応用言語学会世界大会 於:早稲田大学	久村研、山崎朝子、小林ひろみ、石田雅近、浅羽亮一、神保尚武
2 In Search of New Dimensions of In-service EFL Teacher Training and Professional Development in Japan	共	平成14年12月	第13回国際応用言語学会世界大会 於:Singapore International Convention and Exhibition Center	石田雅近、緑川日出子、久村研、酒井志延、笹島茂
3 English teacher training curriculum in Japan	共	平成14年12月	第13回国際応用言語学会世界大会 於:Singapore International Convention and Exhibition Center	
(シンポジウム)				
1 現職英語教員の研修実態と課題	共	平成13年9月	大学英語教育学会 第40回全国大会 於:藤女子大学	石田雅近、久村研、酒井志延、笹島茂、小泉仁
2 英語科教員養成カリキュラムの諸問題	共	平成14年9月	大学英語教育学会 第41回全国大会 於:青山学院大学	石田雅近、浅羽亮一、神保尚武、広野威、山崎朝子、久村研、豊田一男、石川祥一
(ワークショップ)				
1 A Comprehensive Study of In-Service English Teacher Education in Japan—from status quo to renovations	共	平成13年9月	IATEFLスロベニア大会 於:Ljybljana University Ljybljana,Slovenia	石田雅近、緑川日出子、久村研、酒井志延、笹島茂
(学術誌編集)				
1『清泉英語教育論集』第4号	共編	平成10年4月	清泉英語教育研究会	
2『清泉英語教育論集』第5号	共編	平成11年4月	清泉英語教育研究会	
3『清泉英語教育論集』第6号	共編	平成13年4月	清泉英語教育研究会	
4『清泉英語教育論集』第7号	共編	平成14年4月	清泉英語教育研究会	
5『清泉英語教育論集』第8号	共編	平成14年4月	清泉英語教育研究会	

(講演)					
1 英語教育の今日的課題	単	平成15年1月	大東文化大学英語教育講演会 於:大東文化大学		
学会等および社会における主な活動					
平成元年4月～現在に至る	NHKラジオ「高校講座英語II」番組出演講師				
平成5年4月～平成15年3月	大学英語教育学会幹事(研究会担当委員会委員長)				
平成8年4月～現在に至る	英語教育協議会同友会紀要論文査読委員				
平成9年7月～現在に至る	大学英語教育学会紀要論文査読委員				
平成10年9月～平成12年3月	第12回国際応用言語学会(AILA)世界大会委員会委員				
平成12年4月～平成13年3月	文部省生涯学習局「実用英語技能検定試験審査基準」検討委員会委員				
平成13年4月～平成15年9月	英語教育協議会同友会常任理事				
平成13年8月～平成15年3月	文部科学省初等中等教育局「教職課程における教育内容・方法の開発研究」委嘱事業代表者				
平成13年10月～現在に至る	最高裁判所人事局任用課「事務官・調査官・書記官任用試験」委員会試験委員(英語:I種及びII種)				
平成14年9月～現在に至る	文部科学省高等教育局、初等中等教育局「英語教育に関する研究(中学校・高等学校・大学における英語教育の在り方)」委嘱第3研究グループ代表者				
平成15年4月～現在に至る	大学英語教育学会理事(研究会担当)				

過去5年以前の主な研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	担当頁数
【著書】 1『大学英語教育に関する実態と将来像の総合的研究(I)—教員の立場— (昭和56年度及び昭和57年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書)』	共著	昭和58年3月	大学「一般英語」教育実態調査研究会	小池生夫(研究代表者)、安藤昭一、古川尚子(副委員長)、原岡笙子、伊部哲(委員長)、伊藤嘉一、石田雅近(副委員長)、國吉丈夫、升川潔、西村嘉太郎、多田稔、田辺洋二	99頁～116頁

<p>2『大学英語教育に関する実態と将来像の総合的研究(Ⅱ)―学生の立場― (昭和58年度及び昭和59年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書)』</p>	<p>共著</p>	<p>昭和60年3月</p>	<p>大学「一般英語」教育実態調査研究会</p>	<p>小池生夫(研究代表者)、安藤昭一、古川尚子(副委員長)、原岡笙子、伊部哲(委員長)、伊藤嘉一、石田雅近(副委員長)、石川祥一、國吉丈夫、松山正男、成沢義雄、西村嘉太郎、多田稔、田島穆、田辺洋二、吉岡元子</p>	<p>75頁～89頁、 116頁～122頁</p>
<p>3『早期教育・中学校・高等学校の英語教育における実態と将来像の総合的研究(海外子女教育を含む) (昭和61年度及び昭和62年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書)』</p>	<p>共著</p>	<p>昭和63年3月</p>	<p>英語教育実態調査研究会</p>	<p>小池生夫(研究代表者)、安藤昭一、朝尾幸次郎、古川尚子(副委員長)、原岡笙子、伊部哲(委員長)、石田雅近(副委員長)、石川祥一、國吉丈夫、松山正男、西村嘉太郎、多田稔、田島穆、竹前丈夫</p>	<p>101頁～113頁</p>
<p>4『職業人から見た英語教育に関する実態と将来像の総合的研究 (昭和63年度及び平成元年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書)』</p>	<p>共著</p>	<p>平成2年3月</p>	<p>英語教育実態調査研究会</p>	<p>小池生夫(研究代表者)、安藤昭一、朝尾幸次郎、古川尚子(副委員長)、原岡笙子、伊部哲(委員長)、石田雅近(副委員長)、石川祥一、國吉丈夫、松山正男、西村嘉太郎、多田稔、田島穆、竹前丈夫</p>	<p>33頁～45頁</p>
<p>5『わが国の英語教育に関する実態と将来像の総合的研究 (昭和63年度及び平成元年度文部省科学研究費補助金研究成果報告書)』</p>	<p>共著</p>	<p>平成2年3月</p>	<p>英語教育実態調査研究会</p>	<p>小池生夫(研究代表者)、安藤昭一、朝尾幸次郎、古川尚子(副委員長)、原岡笙子、伊部哲(委員長)、石田雅近(副委員長)、石川祥一、國吉丈夫、松山正男、西村嘉太郎、多田稔、田島穆、竹前丈夫</p>	<p>60頁～65頁</p>

6『英語科教育法全国調査報告書』	共著	平成10年2月	大学英語教育学会 (教育問題研究会)	浅羽亮一(代表者)、石田雅近(副代表者)、小林ひろみ、神保尚武、田中慎也、大川道代、久村 研	3頁～15頁
【学術論文】 1 教員養成と研修を考える:「英語科教育法」の実態—JACET教育問題研究会アンケート調査による—	単著	平成10年1月	『英語教育』第46巻第11号 大修館書店		11頁～13頁
【その他】 (教科書) 1『パラグラフ中心の英文読解演習—Interactive Reader for Paragraph Development—』	共著	平成10年1月	金星堂	石田雅近(監修)、小川奈保子、吉田由美子	1頁～5頁,20頁～24頁,83頁～87頁,95頁～100頁
2『Go, English! I』(文部省検定高等学校教科書)	共著	平成10年2月	東京書籍	石田雅近(監修者・編著者代表)、宇田川努、浦 敏之、大竹孝司、岡崎万紀子、笹島茂、千葉玲子、トーマス・コーガン	編著者全員による共同作業であるため担当箇所は抽出できない。
3『Go, English! II』(文部省検定高等学校教科書)	共著	平成10年2月	東京書籍	石田雅近(監修者・編著者代表)、宇田川努、浦 敏之、大竹孝司、岡崎万紀子、笹島茂、千葉玲子、トーマス・コーガン	編著者全員による共同作業であるため担当箇所は抽出できない。
(辞典・事典) 1『ブライト英和辞典』	共著	平成6年1月	小学館	編著:田辺洋二、西尾巖、中村匡克 執筆:青柳文男、飯島周、石田雅近、他59名	
2『ニューブロード英和辞典』	共著	平成6年10月	ベネッセコーポレーション	編者:長谷川潔、小池生夫、島岡丘、竹蓋幸生 編集委員:浅羽亮一、石田雅近、乾隆、上杉明、村田年、Erich Berendt	
3『類似英語使い分け辞典』	共著	平成8年8月	東京堂出版	稗島一郎(編者)、石田雅近	

所属:文学部 英語英文学科	職名: 教授	氏名: 大杉 正明	大学院の授業担当:有(博士・修士)		
研 究 活 動					
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発 表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ記入)	担当頁数
【著書】					
1『Hopes, Love and Dreams in New York』	単著	平成10年6月	NHK出版		189頁
2『イギリス英語はおもしろい』	単著	平成11年7月	DHC出版		173頁
【その他】					
(監修)					
1『英語であれこれ言ってみる』	共著	平成14年10月	増進会出版		300頁
(辞書編集)					
1『インフォワード和英辞典』	共著	平成11年3月	ベネッセ		697頁「モデルダイ アローグ」「機能別フ レーズ」執筆
(テキスト)					
1 NHK教育テレビ『いまから出直し英語塾』	単著	平成15年 4月～9月	NHK出版		本文65頁分を、平成1 5年4月～9月の6ヶ月 間にわたって執筆
(音声・映像教材)					
1「英語リスニングBOX」(ビデオ3巻・テキスト付き)	単	平成11年6月	NHKソフトウェア		
2「リフレックスマスター 英語」(ビデオ4巻(リスニング、会話、文法、読解・テキスト付き))	単	平成13年10月	中央出版		
(学会講演)					
1 Starting Over	単	平成11年8月	FLEAT IV (Foreign Language Education and Technology) 第4回外国語教育世界大会 於:神戸アイランド・ホール		
2 英語学習と語彙	単	平成13年10月	JACET (大学英語教育学会) 東北支部研究大会		

【口頭発表】					
1 Bilingual Dictionaries for Japanese Learners	単	平成10年6月	InterLex 1998, Exeter University 「国際辞書学セミナー」 於: 英国エクセター大学		
学会等および社会における主な活動					
昭和62年4月～平成10年3月	日本英語学会会員 「NHKラジオ英会話」講師				
平成11年～現在に至る	LET(外国語教育メディア学会) 関東支部運営委員・国際交流委員				
平成11年～現在に至る	JACET(大学英語教育学会) 辞書研究会運営委員				
平成12年	“InterLex Tokyo 2000”(「国際辞書学セミナー2000」)会場: 清泉女子大学 大会実行委員長				
平成13年～現在に至る	LET(外国語教育メディア学会)「紀要」査読委員				
平成13年～現在に至る	JACET(大学英語教育学会)「紀要」査読委員				
平成15年	“AsiaLex 2003”(「アジア辞書学会」)会場: 明海大学 大会組織委員				
平成15年4月～平成15年9月	NHK教育テレビ「いまから出直し英語塾」講師				

過去5年以前の主な研究活動					
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発 表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ記入)	担当頁数
【その他】					
(辞書編集)					
1『プロシード和英辞典』	共著	平成元年	福武書店	アラン・ターニー、長谷川潔、橋本光郎	1620頁 全編にわたって執筆・編集
2『ニュープロシード和英辞典』	共著	平成8年	ベネッセ	アラン・ターニー、長谷川潔、橋本光郎	1630頁 全編にわたって執筆・編集
(テキスト)					
1『NHKラジオ英会話』	共著	昭和62年4月 ～ 平成10年3月	NHK出版	Nancy Meshkaff	本文会話、解説等55頁分を毎月、平成10年3月まで11年間にわたり執筆

所属:文学部 英語英文学科	職名: 教授	氏名: 高田恵利子	大学院の授業担当:有(博士・修士)			
研 究 活 動						
著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発 表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ記入)	担当頁数
【学術論文】						
1 物語詩『王子と旅路』における幽玄の叙情世界		単著	平成11年3月	『清泉女子大学キリスト教文化研究 所年報』第7巻		33頁～49頁
2 アイルランド文化とキリスト教		単著	平成12年3月	『清泉女子大学キリスト教文化研究 所年報』第8巻		139頁～158頁
3 スコットランド風土とキリスト教的文化		単著	平成13年3月	『清泉女子大学キリスト教文化研究 所年報』第9巻		51頁～76頁
4 物語詩『王子と旅路』:悪の誘惑、罪、清めと贖罪		単著	平成14年3月	『清泉女子大学キリスト教文化研究 所年報』第10巻		71頁～91頁
【その他】 (講演)						
1 J. ジョイス:アイルランド気質と島国性		単	平成10年10月	清泉女子大学土曜自由大学 於:清泉女子大学		
学会等および社会における主な活動						
昭和48年4月～現在に至る		日本イェイツ協会会員				
昭和56年4月～現在に至る		International Association for the Anglo-Irish Literature会員				

過去5年以前の主な研究活動						
著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発 表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ記入)	担当頁数
【学術論文】						
1 詩人C. ロセッティ:愛の霊性		単著	平成10年3月	『清泉女子大学キリスト教文化研究 所年報』第6巻		167頁～184頁
【その他】 (教科書・編纂と注釈)						
1 <i>The Bible</i>		共著	昭和53年(初版), 昭和54年(第二版 改訂),平成4年(第 三版改訂)	英光社	生地竹郎	16頁～32頁

所属: 文学部 英語英文学科	職名: 教授	氏名: アラン・J・ターニー	大学院の授業担当: 有(博士・修士)		
研究活動					
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発 表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ記入)	担当頁数
【著書】 1『プロ翻訳家養成英日出版総合コース: Advancedコース』	共著	平成14年	東京:DHC Corporation、 教育事業部	アラン・ターニー、 河野他	1頁～60頁
【学術論文】 1 グールドと「非人情」	単著	平成11年	『漱石とグールド』朔北社	横田庄一郎編	39頁～43頁
学会等および社会における主な活動					
平成10年	「グールドと漱石の非人情」日加文化交流シンポジウム、カナダ大使館、東京				
平成11年	Graphological Contextualization and Japanese-English Translation'UMIST (Manchester University Institute of Science and Technology)				
平成11年	Thematic Anaphora and Japanese-English Translation' ウオーウイック大学英国及び比較文化研究センター				
平成12年	Provenance, Context and the Translator's Objectives With Regard to Japanese-English Literary Translation: 'Hojoki' and its English Translations' 'Research Models in Translation Studies' Conference、UMIST				
平成13年	'Constructing Cultures'ウオーウイック大学英国及び比較文化研究センター				
平成13年	Translation and Bilingual Dictionaries' JACET Symposium, Tokyo				
平成15年1月～現在に至る	横浜Bluff Clinic 理事長				

所属:文学部 英語英文学科	職名: 教授	氏名: 中尾 セツ子	大学院の授業担当:有(博士・修士)			
研 究 活 動						
著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発 表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ記入)	担当頁数
【学術論文】 1 <i>The Lord of the Rings</i> の一考察 2 三冊の愛の書簡集		単著 単著	平成12年12月 平成14年12月	『清泉女子大学紀要』第48号 『清泉女子大学紀要』第50号		43頁～54頁 39頁～59頁
【その他】 (事典翻訳) 1 <i>C.S.Lewis : a Companion and Guide</i> Walter Hooper 著『C. S. ルイスの文学案内事典』 (「重要概念項目」「関係人物項目」「関係事項項目」)		共著	平成10年8月	彩流社	山形和美編	
【口頭発表】 1 C.S.ルイスの書簡をめぐって		単	平成14年7月	日本C.S.ルイス協会 於:清泉女子大学		
学会等および社会における主な活動						
昭和48年～現在に至る	上智大学英語英文学会会員					
昭和48年～現在に至る	ルネッサンス研究所所員					
昭和50年～現在に至る	日本英文学会会員					
昭和50年～現在に至る	日本シェイクスピア学会会員					
昭和50年～現在に至る	ニューヨークC.S.ルイスソサエティ会員					
昭和52年～現在に至る	CANADIAN C.S.ルイス協会会員					
昭和61年～現在に至る	日本C.S.ルイス協会運営委員					

過去5年以前の主な研究活動						
著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発 表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ記入)	担当頁数
【著書】 1 『A Study of Richard Crashaw』Renaissance Monograph,no.2 2 『クラショウの詩におけるカトリシズム』ルネッサンス双書第3号		単著 単著	昭和51年9月 昭和51年9月	荒竹出版社 荒竹出版社		124頁 225頁

所属: 文学部 英語英文学科	職名: 教授	氏名: エリック・A・ヘレント	大学院の授業担当: 有(博士・修士)		
研究活動					
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発 表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ記入)	担当頁数
【著書】					
1 『英語基本語彙の使い方辞典』	共著	平成 11年3月	語研	Y. Takefuta	470頁
2 『新しい英文リスニング法』	共著	平成 12年4月	岩波ジュニア新書	M. Tenma	172頁
【編著】					
1 Learning: East and West	単著	平成10年	<i>Intercultural Communication Studies</i> Trinity University Vol. VII-2		137頁
【学術論文】					
1 Interpersonal Communicative Goals in Asian English Textbooks: What are Students Learning to do?	単著	平成10年	<i>Asian Englishes</i> ALC Press Vol.1, No.1		138頁～151頁
2 Convergent and Divergent Conceptualization Patterns on Learning in English and Japanese	共著	平成10年	<i>Intercultural Communication Studies</i> Trinity University Vol. VII-2	Y. Souma	63頁～105頁
3 Who is the Most Talktive of them All? (book review)	単著	平成11年	<i>Asian Englishes</i> ALC Press Vol.2, No.1		138頁～139頁
4 AILA in Asia	単著	平成12年	<i>Asian Englishes</i> ALC Press Vol.2, No.2		116頁～120頁
5 Learning to Read in China: Sociolinguistic Prespectives on the Acquisition of Literacy (book review)	単著	平成 12年	<i>Asian Englishes</i> ALC Press Vol.3, No.1		104頁～107頁
6 Words in Context: A Japanese Respective on Leanguage and Culture (book review)	単著	平成 13年	<i>Asian Englishes</i> ALC Press Vol.4, No.2		120頁～121頁
【その他】					
(特別講演)					
1 English and Intercultural Communication	単	平成10年7月	Special lecture Chiba Municipal College, Chiba City		
2 English Communicative Resources of Japanese Elementary School Children	単	平成13年 8月・9月	Tsuda Juku Kai, Tokyo		
3 イギリスに学ぶこれからの日本	単	平成14年5月	雄松堂フォーラム 於: 早稲田大学		
4 Making and Doing Conversation	単	平成15年3月	Yokohama Linguistic Circle No.29, Machida City, Kanagawa Pref.		

【口頭発表】				
1 Discourse Analysis of Chinese English Textbooks	単	平成10年6月	Japan Association for Asian Englishes No. 3, Shirayuri College	M.Hiraga,K.Murata,M.Nakano
2 Collecting and Using Data in Discourse and Pragmatics	共	平成10年9月	Japan Association of College English Teachers Symposium chair Sept.	
3 Talk Day Data Base and Strategy Analysis in Spoken Discourse	単	平成10年9月	Japan Association of College English Teachers Conference No. 37	
4 Thinking of Learning? Eastern and Western Patterns of Thought in Learning	単	平成10年11月	Asiatic Society of Japan (Goethe Institute, Tokyo)	N.ochi,K.Matsui,A.Maeda Y.Yano,J.Wagner,M.Nakano,H.Shin,K.Murata,J.Blommaert
5 The Impact of English in Japanese Children's Communication Domains	共	平成11年6月	Symposium chair Japan Association for Asian Englishes No.5	
6 Miscommunication: Adequacy, Atrophy and Ambiguity	共	平成11年8月	AILA '99 Waseda University Symposium chair International Association of Applied Linguistics No. 12 Tokyo	
7 The interplay of Preparatory and Clarification Processes in Dyadic Exchanges and Implications for Communicative Adequacy	単	平成11年8月	AILA '99 Waseda University	
8 Conceptualization patterns of 'ideas/kangae' in English and Japanese	単	平成12年7月	International Pragmatics Association Conference No.6, Technical University, Budapest, Hungary	
9 Dimensions of Creating Understanding in Cross-Cultural Contexts & the Roles of Vocabulary	単	平成13年7月	International Conference on Cross-Cultural Communication Hong Kong Baptist University, Symposium chair	
10 Aspect of Spoken Discourse, Exchange Structure Strategies and Implications for Teaching Oral Communication	単	平成13年9月	International Conference for Teaching Language in Multi-lingual Societies, University of Brunei Darusalem	K.Murata,M.Nakano,J.Turner,Y.Yano
11 Discourse Aspects of Clarification in Creating Understanding in Cross-Cultural Situations	共	平成14年12月	AILA 2002 Symposium Organizer	
12 Clarification strategies in exchanges: the cases of English, Spanish, Japanese and Chinese	単	平成14年12月	International Association of Applied Linguistics AILA No. 13	

学会等および社会における主な活動

平成5年～平成11年	AILA '99 Organizing Committee member and Program Committee member at Waseda University
平成7年4月～現在に至る	Japan Association of College English Teachers Discourse-Pragmatics SIG chair
平成8年4月～平成15年3月	Asiatic Society of Japan Executive Council
平成9年4月～現在に至る	Japan Association for Asian Englishes Executive Board

平成9年4月～現在に至る	<i>Intercultural Communication Studies</i> Editorial Board
平成10年4月～平成15年3月	<i>Asian Englishes</i> Book review editor and editorial board
平成12年1月～平成15年1月	Asiatic Society of Japan President
平成13年4月～現在に至る	Japan Association for Teaching Language and Culture, Board of Directors

過去5年以前の主な研究活動					
著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発 表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ記入)	担当頁数
【著書】 1 『やさしい英字新聞入門』	共著	平成8年10月	岩波ジュニア新書	M. Tenma	205頁
【学術論文】 1 Preparatory, phatic and clarification phases in conversational strategies	単著	平成9年11月	<i>World Englishes</i> Blackwell Pub., Vol. 16, No.3		407頁～416頁
【その他】 (特別講演) 1 Differences between spoken and written language	単	平成9年11月	Institute for Educational Leadership on Teaching of English/Mombusho, Gotemba, Shizuoka Pref.		
2 Oral Communication and Discourse Analysis	単	平成9年11月	Institute for Educational Leadership on Teaching of English/Mombusho, Gotemba, Shizuoka Pref.		
【口頭発表】 1 Sociocognitive universals in dyadic discourse	単	平成8年7月	International Association Pragmatics conference No.5, UNAM Mexico City		
2 Dyadic Universals and Japanese Learners of English	単	平成8年8月	AILA No. 11 Jyvaskyla University, Finland		

所属:文学部 英語英文学科	職名: 助教授	氏名: 斉藤 悦子	大学院の授業担当:無			
研究活動						
著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発 表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ記入)	担当頁数
【学術論文】						
1 トニ・モリスンにおける“regionality”と文体		単著	平成12年12月	New Perspective 172号 新英米文学会		100頁～114頁
【口頭発表】						
1 塩田勉『ジェイムソン「モダニズムと帝国主義」―「囲い込み」と「排除」で解くモダニズムの文体―』に おけるラカンの概念とジェイムソンのモダニズム論について		単	平成14年9月	新英米文学会9月例会 於:早稲田奉仕園		
2 異文化と言語		単	平成14年11月	八千代市公開講座 於:八千代台東南公共センター		
学会等および社会における主な活動						
平成2年4月～平成5年3月		日本アメリカ文学会会員 新英米文学会会員 日本マーク・トウェイン協会会員 新英米文学会 常任委員				

過去5年以前の主な研究活動						
著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発 表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ記入)	担当頁数
【著書】						
1 「グラント自伝」、『アメリカン・ドリーム』		共著	平成4年7月	河合出版	亀井俊介、鈴木健 次編、亀井俊介、 鈴木健次、斉藤悦 子他13名	45頁～65頁
2 『『若草物語』』、『『トムソーヤーの冒険』』、『『ベン・ハー』』、『『アメリカン・ベストセラー38』』		共著	平成4年12月	丸善株式会社 (丸善ライブラリー070)	亀井俊介編 亀 井俊介、荒この み、斉藤悦子他17 名	151頁～161頁

【学術論文】	1 ハックルベリー・フィンの曖昧さのメカニズム	単著	平成元年12月	『アメリカ文学』50号 日本アメリカ文学会 <i>New Perspective</i> 165号 新英米文学会		14頁～20頁
	2 Beloved における語りの政治性	単著	平成9年6月			30頁～40頁
	【その他】					
	(翻訳)					
	1 ダニエル・ローレンス・オキーフ著 『盗まれた稲妻 — 呪術の社会学』	共著	平成9年3月	法政大学出版局 (叢書ウニベルシタス)	斉藤悦子、谷林真 理子他4名分担訳	489頁～521頁 679頁～778頁

所属:文学部 英語英文学科	職名:専任講師	氏名:長沼 君主	大学院の授業担当:無			
研 究 活 動						
著書・論文等の名称		単著・ 共著の別	発行または発 表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号 数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著 の場合のみ記入)	担当頁数
【学術論文】						
1 言語学習動機づけモデルとその教育的応用		単著	平成10年	“On JALT’97: Trends & Transitions” JALT	長沼君主、和田 朋子	55頁～60頁
2 言語学習動機づけの診断的分析		単著	平成11年	“On JALT’98: Focus on the Classroom” JALT		57頁～63頁
3 コーパスに基づいたリーダビリティの測定とその教育的応用		単著	平成13年	“On JALT2000: Towards the New Millennium” JALT		129頁～135頁
4 英語コミュニケーション能力テストはどのような能力を測っているのか		単著	平成13年	『英語コミュニケーション能力テスト 実施データ分析報告書』第2号 ベネッセコーポレーション		17頁～22頁
5 教室における言語学習動機づけ:関係性の視点から		単著	平成14年	『ソーシャル・モチベーション研究』 第1号 日本発達心理学会Social Motivation研究分科会		11頁～20頁
6 速読力とテキストの読みやすさによる英語リーディング能力の測定		共著	平成14年	“JLTA Journal”第5号 日本言語テスト学会		34頁～45頁
7 英語力を絶対評価するとはどういうことか:項目応答理論による英語コミュニケーション能力テストの考察		単著	平成14年	『英語コミュニケーション能力テスト 実施報告書』第3号 ベネッセコーポレーション		10頁～21頁
8 言語学習における動機づけ測定尺度の展望(研究ノート)		単著	平成15年	『言語・地域文化研究』第9号 東京外国語大学大学院		163頁～176頁
【口頭発表】						
1 言語学習動機づけの測定尺度の開発		単	平成10年8月	日本教育心理学会第40回総会 於:函館		
2 Diagnostic Analysis of Motivational Factors in ESL		単	平成10年11月	第24回JALT年次国際大会 於:大宮		
3 言語学習における動機づけの測定尺度の考察		単	平成11年8月	第25回全国英語教育学会 於:北九州		
4 共分散構造分析による言語学習動機づけの構造の分析		単	平成11年8月	日本教育心理学会第41回総会 於:神戸		
5 Investigating Student Motivation in Language Learning		単	平成11年8月	Teacher Research and Teacher Development/Classroom Language Learning Research Group 於:Lancaster U.K.		

6 Exploring Structures of Motivational Components in Foreign Language Learning	単	平成12年5月	The 7th Workshop on Achievement and Task Motivation 於:Leuven Belgium		
7 A Critical Survey of the Softwares for Analysing Spoken Corpora	共	平成12年9月	The 33rd Annual Meeting of British Association for Applied Linguistics 於:Cambridge U.K.	Yukio TONO and Naoyuki NAGANUMA	
8 Corpus-based Analysis of Readability for Autonomous Learning	単	平成12年11月	第26回JALT年次国際大会 於:静岡		
9 教室における情意的フィードバックと関係性	単	平成13年9月	日本教育心理学会第43回総会 於:名古屋		
10 速読力とテキストの読みやすさによる英語リーディング能力の測定	共	平成13年9月	第40回JACET全国大会 於:札幌	長沼君主、和田 朋子	
11 言語学習における関係性関連動機づけ尺度作成の試み	単	平成14年10月	日本教育心理学会第44回総会 於:熊本		
12 複数の語彙レベルによるリーダビリティの測定の試み	単	平成14年10月	日本言語テスト学会第6回全国研究大会 於:東京		
13 自律的英語音声学習におけるコンピュータ利用の可能性	単	平成14年12月	外国語教育学会第6回大会 於:東京		
学会等および社会における主な活動					
		日本教育心理学会会員 大学英語教育学会(JACET)会員 日本言語テスト学会(JLTA)会員 外国語教育学会会員			

過去5年以前の主な研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)又は発表学会等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	担当頁数
【学術論文】					
1 リーディング教材の興味に関する調査(I)	共著	平成9年	『語学教育研究所紀要』第11号 財団法人語学教育研究所	根岸雅史 他	
【口頭発表】					
1 A New Model of Motivation in Language Learning	単	平成9年10月	第23回JALT年次国際大会 於:浜松		